



下末吉だより

令和8年5月29日

6月号

横浜市立下末吉小学校

スポーツはみんなのもの

校長 千葉 寛興

4月の終わりから5月にかけて、全国の多くの小学校では体力テストを行います。下小でも、毎年同じ時期に取り組みます。教室を巡回していると、子どもたちは自分の結果について考えたことを、私にたくさん話してくれます。さて、体力テストの取組は1961(昭和36)年に公布された「スポーツ振興法」を受け、1964(昭和39)年から毎年実施されています。ボール投げや50メートル走、握力や反復横跳びといった種目の長年の推移を見ると、長期的には体力の低下傾向が指摘されています。特に近年では、外遊びの減少や生活の利便化、運動習慣の二極化を背景に、日常生活のあり方が子どもの身体に与える影響の大きさが浮き彫りになっています。一方で、学校や家庭の意識的な取組により改善の兆しも見られ、子どもの体力は環境によって大きく左右されるものであることも明らかになっています。

こうした課題に対し、横浜市の「第5次教育振興基本計画」では、「健やかな体の育成」が重要な柱の一つとして掲げられています。そこでは、体育の授業の充実に加え、日常的に体を動かす機会の確保や、基本的な生活習慣の定着を通じて、子どもの健康づくりを推進する方針が示されています。また、運動を「できる・できない」で評価するのではなく、「楽しさ」や「関わり」を重視し、運動への意欲を高めることが重視されている点が特徴的です。これは、単なる体力向上ではなく、生涯にわたって健康的に生活するための基盤づくりを目指すものといえます。

このような観点から考えると、子どもや保護者に求められる学校の姿も明確になります。それは、子どもが安心して体を動かし、運動することの喜びを実感できる学校です。競争や結果だけを重視するのではなく、一人ひとりの発達段階や特性に応じて成功体験を積み重ねられる環境が必要です。また、学校が子どもたちの健康づくりのパートナーとして関わるのが重要であり、家庭と連携しながら生活習慣の改善や運動機会の確保に取り組むことが求められています。

こうした方向性は、令和8年度の横浜市立下末吉小学校の中期学校経営方針にも具体的に示されています。下小では、体育科の授業において、自分たちの運動実態に応じた学習目標を立てるなどして、子どもたちが主体的に運動に関わる姿を引き出す工夫を重ねています。また、休み時間や学校行事を通して体を動かす機会を充実させ、日常的に運動に親しむ環境づくりも進めています。さらに、食育や生活習慣の指導とも関連付けながら、総合的に子どもの健康を育んでいます。

体力テストの数値は、子どもの成長の一側面を示すものです。しかし、その背景にある生活や経験に目を向けることで、より本質的な課題と可能性が見えてきます。学校が子どもたちに運動の楽しさを伝え、健康な生活の基盤を築く場であり続けることが、これからの教育において重要であることは言うまでもありません。2017(平成29)年に文部科学省が示した「スポーツ基本計画」でも、楽しむことをスポーツの価値の中核におき、全ての人々が自発的にスポーツに取り組む社会の実現を目指しています。その中では「スポーツは『みんなのもの』」として表現しています。

子どもたちが心身ともに健やかに成長し、自らの健康を大切にできる力を身に付けていくために、学校・家庭・地域が一体となって、運動に親しむ習慣を養っていききたいと思います。



下末吉小学校 HP